

## **枠 98%の 20 万トンを埋まる** **2 県を除いて優先枠消化**

### **8 年産備蓄米第 3 回買入札**

5 月 26 日に令和 8 年産備蓄米の第 3 回買入札(事前契約)が実施され、買入総枠 20 万 7521 トンの 98%、20 万 4189 トンまでの売り渡しが埋まった。落札残数 3332 トンを一般枠(産地指定なし)として提示し、今月 9 日に第 4 回入札が行われるが、全量埋まる可能性が出てきた。

第 3 回入札では、第 2 回の落札残数 3 万 6089 トンが県別優先枠で提示されたところ、95%相当の 3 万 4396 トンが申し込まれ、このうち 3 万 2757 トンの売り渡しが落札された。提示数量に対する落札率は、91%と非常に高かった。今回、一般枠は提示されていない。

第 3 回入札では 7 県の優先枠のうち 5 県が全量落札に至った。今回、全量落札の産地は、▷新潟 2 万 2595 トン▷石川 5046 トン▷滋賀 845 トン▷広島 57 トン▷福岡 35 トン——となっている。枠に対して新潟には 120 トン、石川には 1300 トン、滋賀には 200 トンそれぞれ上回る札入れがあった。福岡は枠通り 38 トンの札が入って全量が落札した。

一方、静岡は枠通りの 19 トンが申し込まれたが、全量不落に。富山は 7492 トンの枠にこれを下回る 4179 トンしか申し込まれず、残り 3313 トンの落札残が発生した。

1～3 回の入札では、8 年産の落札価格水準 60 円税別 2 万円がらみに対する産地ごとの認識・納得感が異なる状況が垣間見える。

4 月末現在の 8 年産作付意向調査では、備蓄米は 2 万 7000 ㍉、15 万トン相当の生産見込みでしかない。買入札の落札累計数量は次回以降の入札で全量埋まれば 20 万 7621 トンに達する。5 万トン強のギャップが生じており、この分だけ出来秋で主食用流通から充当が見込まれる。ただし、需給見通しでは来年 6 月末の民間在庫が 243～271 万トンへと「上ブレ」が予想されており、引き締め効果は薄い。